

◎一億総活躍社会に関する意見交換会

一億総活躍社会に関する意見交換会 第1回

平成27年11月5日（木）10:00-11:00

合同庁舎8号館一億総活躍担当大臣応接室

開会

一億総活躍担当大臣挨拶

意見交換対象者からの発言

意見交換

閉会

出席者

加藤勝信 一億総活躍担当大臣

高鳥修一 内閣府副大臣

（一億総活躍国民会議有識者構成員）

飯島勝矢 東京大学高齢社会総合研究機構准教授、医師

大日方邦子 日本パラリンピアンズ協会副会長

菊池桃子 女優、戸板女子短期大学客員教授

白河桃子 相模女子大学客員教授、ジャーナリスト

高橋 進 日本総合研究所理事長

増田寛也 東京大学公共政策大学院客員教授

松為信雄 文京学院大学人間学部教授

松本理寿輝 まちの保育園代表

（意見交換対象有識者）

小林雅之 東京大学大学総合教育研究センター教授

安永愛香 社会福祉法人どろんこ会理事長

渡辺由美子 NPO法人キッズドア理事長

（概要）

○田中一億総活躍推進室次長 それでは、これから「一億総活躍社会に関する意見交換会」を始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、急なお願いにもかかわらず、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

それでは、最初に加藤一億総活躍担当大臣から御挨拶をお願いいたします。

○加藤一億総活躍担当大臣 おはようございます。

今日は大変お忙しい中、有識者、経験のある方々においでいただきました。また国民会議のメンバーの皆さん方にも御参集いただきまして、改めて御礼申し上げたいと思います。

御承知のとおり、安倍政権では、少子高齢化という構造的な問題に取り組んでいくということで、高齢者の方、若い人、女性男性、また障害、難病等、課題がある方々を含めて国民の一人一人に家族、家庭の中において、あるいは職場において、また地域社会において今より一歩前に踏み出していただく。そういう社会を実現していこうということで、一億総活躍社会の実現を目指して取り組ませていただいております。

具体的には、御承知のようにGDPで600兆円、希望出生率1.8、介護離職ゼロという具体的な目標に向けて強い経済、子育て支援、社会保障と新たな三本の矢を吹き込むことによって経済が回り、そしてそれを支える安定的な基盤をつくり、またその安定的な基盤が経済の発展につながる。こういう好循環をぜひつくっていきたいということで取り組んでいるところであります。

先月末に第1回の国民会議を開催いたしまして、今月末には緊急に取り組むべき政策を取りまとめていく。また来年の春に向けて日本一億総活躍プランをつくる。こういう道筋で今、進めさせていただいておりますけれども、この審議においては、国民会議にはもちろんいろいろな各般、各層の方々にも御参加いただいているのですが、さらに現場においていろいろ経験を積んでおられる方、また御意見がある方にこうしておいでいただきまして、そうした方々の御意見もしっかりと取り入れ、また意見交換を通じてさらに議論を深めていきたいと思っております。

今日はその第1回ということでございまして、子育てを取り巻くいろいろな諸課題がございまして。こうした問題についてぜひ意見交換を、また皆さん方がお持ちの様々な御意見をこの機会に伺わせていただきたいと思っておりますので、何とぞよろしく願い申し上げます。

○田中一億総活躍推進室次長 ありがとうございます。

それでは、プレスの方は御退出いただきたいと思っております。お願いいたします。

(報道関係者退室)

議事要旨

資料

資料1:[安永愛香 社会福祉法人どろんこ会理事長 配付資料\(PDF\)](#)

資料2:[渡辺由美子 NPO法人キッズドア理事長 配付資料\(PDF\)](#)

資料3:[小林雅之 東京大学大学総合教育研究センター教授 配付資料\(PDF\)](#)

○田中一億総活躍推進室次長 かなり時間が超過してしまいました。ありがとうございました。

最後に加藤大臣の方から。

○加藤一億総活躍担当大臣 安永様、渡辺様、小林先生、大変お忙しいところありがとうございました。

今日はそれぞれ安永さんからも2つの提案を含めて、また、真のインクルーシブ保育という話もいただきました。渡辺さんからは子供の貧困への対応ということで、様々な御指摘。小林先生から特に高等教育費の負担、渡辺さんからも同じような御指摘もあったと思います。

その辺を含め、さらに今、いろいろな御指摘の中で様々な教育というものが飯島さんからも御指摘のあったように、医療とかヘルスに関して影響する。教育というのは非常に大きい問題であり、そこにいかにアクセスできるようにしていくのが大きなポイントだろうと思っております。

今日いただいた意見交換をこれからの11月、あるいは春に向けてのプランに結びつけさせていきたいと思っております。

また、折々にそれぞれ具体的な御提案があれば、ぜひ積極的にお出しいただければと思います。

今日は本当にお忙しいところ、ありがとうございました。

○田中一億総活躍推進室次長 本日のヒアリングの概要につきましては、後ほど私の方から記者にブリーフをさせていただこうと思っております。発言につきまして、特に注意すべき点があれば、お帰りの際に私におっしゃっていただければと思います。

本日はお忙しいところ本当にありがとうございました。これにて閉会させていただきます。

一億総活躍社会に関する意見交換会 第2回

平成27年11月17日(火) 13:30~15:30

合同庁舎4号館1214特別会議室

開 会

一億総活躍担当大臣挨拶

意見交換対象者からの発言・意見交換

(1)介護／予防／高齢者雇用(13:30~14:30 目途)

○加藤忠相 株式会社あおいけあ代表取締役、NPO 法人ココロまち理事長、
慶應義塾大学看護医療学部非常勤講師

○久野譜也 筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医学専攻教授、
スマートウェルネスシティ首長研究会幹事

○平野茂夫 株式会社マイスター60 取締役会長

○前田展弘 東京大学高齢社会総合研究機構客員研究員、
ニッセイ基礎研究所生活研究部主任研究員

○來海 寿己 柏シルバー人材センタージョブコーディネーター

(2)がん／障害者・障害者雇用(14:30～15:15 目途)

○鈴木美穂 日本テレビ社会部記者、NPO 法人マギーズ東京共同代表

○高橋秀章 株式会社アイエスエフネットニュービジネス推進室長

○竹中ナミ 社会福祉法人プロップ・ステーション理事長

(3)教育費負担(15:15～15:30 目途)

○松田茂樹 中京大学現代社会学部教授

閉 会

出席者

加藤勝信 一億総活躍担当大臣

高鳥修一 内閣府副大臣
(一億総活躍国民会議有識者構成員)

飯島勝矢 東京大学高齢社会総合研究機構准教授、医師

大日方邦子 日本パラリンピアンズ協会副会長

白河桃子 相模女子大学客員教授、ジャーナリスト

高橋 進 日本総合研究所理事長

対馬徳昭 社会福祉法人ノテ福祉会理事長

(意見交換対象有識者)

加藤忠相 株式会社あおいけあ代表取締役、NPO法人ココロまち理事長、慶應義塾大学
看護医療学部非常勤講師

久野譜也 筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医学専攻教授、スマートウェ
ルネスシティ首長研究会幹事

平野茂夫 株式会社マイスター60取締役会長

前田展弘 東京大学高齢社会総合研究機構客員研究員、ニッセイ基礎研究所生活研究
部主任研究員

來海寿己 柏シルバー人材センタージョブコーディネーター

鈴木美穂 日本テレビ社会部記者、NPO法人マギーズ東京共同代表

高橋秀章 株式会社アイエスエフネットニュービジネス推進室長

竹中ナミ 社会福祉法人プロップ・ステーション理事長

松田茂樹 中京大学現代社会学部教授

(概要)

○田中次長 それでは、時間になりましたので始めさせていただきます。

第2回「一億総活躍に関する意見交換会」を始めさせていただきます。

それでは、最初に加藤大臣から御挨拶がございます。

○加藤大臣 一億総活躍担当の加藤でございます。今日は5人の皆さん方、大変お忙しい中、この意見交換会に御参加を頂きまして心から御礼を申し上げたいと思います。

また、国民会議の有識者の皆さん方にもこうして御参加いただきまして、ありがとうございます。

御承知のとおり、安倍総理は少子高齢化という構造的な問題を乗り越える中で、日本の未来を切り開いていこう。そして、その中でいわゆる一億総活躍社会、高齢者も若い方も、女性も男性も、障害や難病等を抱える方々、一度、二度失敗した方も、地域や職場や家庭においてそれぞれの夢の実現に向けてもう一步踏み出していける社会、それを一億総活躍社会とイメージして、その実現に向けて取り組んでいくということを、その意思を申し上げたところであります。

具体的にはいわゆる新三本の矢ということで、希望を生み出す強い経済、夢を紡ぐ子育て支援、安心につながる社会保障という中で、戦後最大のGDP600兆円、希望出生率1.8、介護離職者ゼロという3つの具体的な目標を掲げて今、取り組もうとしているところでございます。

一億総活躍国民会議も10月29日に立ち上げさせていただきました。まずは今月末を目途に緊急に対処すべき施策を取りまとめし、来年春に向けてこれからのロードマップである日本一億総活躍プランをつくっていこうということで、御審議を頂いているところであります。

国民会議でのもちろん議論もありますが、やはりそれぞれの現場あるいはそれぞれの分野を非常に専門にされている方々から広く意見を聞き、また、相互に意見交換をする中でその議論を深めていきたいということで、今日はこうした機会をつくらせていただいたところであります。

今日は特に3部構成になっておりまして、第1部においては介護ということで予防あるいは高齢者の雇用ということで、今日まず最初に5人の方から約1時間、意見交換会をさせていただきます。第2部としては、まさにがんあるいは障害を抱えている方々への対応、また、障害者の雇用といったことに対して3人の方から御意見を聞き、そして最後には教育費の負担も大きな問題であります。それについても意見交換をする。トータルでは

約2時間の意見交換会を予定しているところですが、まず第1部としては介護に関する予防や高齢者雇用については是非とも御議論を頂きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

○田中次長 ありがとうございます。

それでは、メディアの方は御退室をお願いしたいと思います。

議事要旨

資料

資料1: [加藤忠相 株式会社あおいけあ代表取締役、NPO 法人ココロまち理事長、慶應義塾大学看護医療学部非常勤講師](#) 配付資料(PDF)

資料2: [久野譜也 筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医学専攻教授、スマートウェルネスシティ首長研究会幹事](#) 配付資料(PDF)

資料3: [平野茂夫 株式会社マイスター60 取締役会長](#) 配付資料(PDF)

資料4: [前田展弘 東京大学高齢社会総合研究機構客員研究員、ニッセイ基礎研究所生活研究部主任研究員](#) 配付資料(PDF)

資料5: [鈴木美穂 日本テレビ社会部記者、NPO 法人マギーズ東京共同代表](#) 配付資料(PDF)

資料6: [高橋秀章 株式会社アイエスエフネットライフニュービジネス推進室室長](#) 配付資料(PDF)

資料7: [竹中ナミ 社会福祉法人プロップ・ステーション理事長](#) 配付資料(PDF)

資料8: [松田茂樹 中京大学現代社会学部教授](#) 配付資料(PDF)

○田中次長 ありがとうございます。

時間も超過してきております。本当に今日は松田先生、ありがとうございます。

最後に、大臣、副大臣から何かございますでしょうか。

○加藤大臣 ありがとうございます。

かなり高齢者の雇用、障害あるいはがんを抱えながら頑張っている方々、そ○田中次長 ありがとうございます。

時間も超過してきております。本当に今日は松田先生、ありがとうございます。

最後に、大臣、副大臣から何かございますでしょうか。

○加藤大臣 ありがとうございます。

かなり高齢者の雇用、障害あるいはがんを抱えながら頑張っている方々、そして、最後に松田先生から教育費の負担ということでいろいろなお話がありました。前半のところは、一言で言うと、いかにつながりをどうつくっていくのかというのが大変大きなキーワードだったような気がしております、個々の政策は政策として大事でありますけれども、その中でどうつながりをつくっていくのかというのが非常に共通していたような

気がいたします。

また、最後の松田先生の切り口、前もお聞きをさせていただきましたけれども、やはり今どちらかという保育所を中心にやってきている中で届いていないところ。要するに未婚ということの状況が大きく出生率の低下に響いている。そこへどうアプローチをしているのか。さらには、結婚はしたけれども、もう一人、もう二人子供を産むということに対して、多分高等教育費の負担が大変大きいのだろうという指摘はそのとおりでありますし、実際、分析をしてみるとそのところは大変大きな固まりになっているので、特に2人目、3人目になるとちょうど重なってくるわけでありまして、大変負担が大きいのだろうなど。それに対する対策といったこともこれからしっかりとまた国民会議で御議論いただいて、まずは11月末に向けての取りまとめに向けていきたいと思っております。その先の春に向けてのプランということもございます。引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。今日はありがとうございました。

○田中次長 副大臣、いかがでしょうか。

○高鳥副大臣 時間でございますので、簡潔にいたしますが、一億総活躍にかかわる各層の活躍とか、少子化の問題、根源的な非常に有意義なお話を聞いて、有り難いと思ひます。障害者福祉とか就労のことを私も聞きたかったので、後で個別にお聞きしようと思ひます。今日はありがとうございました。

○田中次長 ありがとうございます。

一億総活躍社会に関する意見交換会 第3回

平成27年11月18日(水) 13:30~15:30

合同庁舎4号館1214特別会議室

開 会

一億総活躍担当大臣挨拶

意見交換対象者からの発言・意見交換

(1)女性活躍／ひとり親(13:30~14:15 目途)

○副島三記子 株式会社資生堂執行役員

○本多由紀 株式会社資生堂人事部ビジネスパートナー室長

○西村幸 リバー・ゼメックス株式会社社長

○山屋理恵 特定非営利活動法人インクルいわて理事長

(2)少子化対策・子育て(14:15~14:45 目途)

○中橋恵美子 NPO 法人わははネット理事長

○加藤彰彦 明治大学政治経済学部教授

(3)働き方(有識者／採用／労務)(14:45～15:30 目途)

○佐藤博樹 中央大学大学院戦略経営研究科教授

○島原由里子 オタフクホールディングス株式会社人事部部長

○中畑英信 株式会社日立製作所執行役常務・CHRO兼人財統括本部長

○武内和子 株式会社日立製作所人財統括本部ダイバーシティ推進センタ

部長代理

閉 会

出席者

加藤勝信 一億総活躍担当大臣

高鳥修一 内閣府副大臣

(一億総活躍国民会議有識者構成員)

菊池桃子 女優、戸板女子短期大学客員教授

白河桃子 相模女子大学客員教授、ジャーナリスト

松本理寿輝 まちの保育園代表

(意見交換対象有識者)

副島三記子 株式会社資生堂執行役員

本多由紀 株式会社資生堂人事部ビジネスパートナー室長

西村 幸 リバー・ゼメックス株式会社社長

山屋理恵 特定非営利活動法人インクルいわて理事長

中橋恵美子 NPO法人わははネット理事長

加藤彰彦 明治大学政治経済学部教授

佐藤博樹 中央大学大学院戦略経営研究科教授

島原由里子 オタフクホールディングス株式会社人事部部長

中畑英信 株式会社日立製作所執行役常務・CHRO兼人財統括本部長

武内和子 株式会社日立製作所人財統括本部ダイバーシティ推進センタ部長代理

(概要)

○田中次長 それでは、おそろいでございますので「一億総活躍社会に関する意見交換会」を始めさせていただきます。

本日は、お忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。

最初に、加藤大臣から御挨拶をお願いいたします。

○加藤大臣 今日はそれぞれお忙しい中、お時間を割いていただきまして、ありがとう

ございます。一億総活躍担当大臣をしております加藤勝信でございます。
また、国民会議の委員の先生方にもこうして御出席を賜りまして、ありがとうございます。

もう申し上げるまでもなく、安倍政権においては、少子高齢化という構造的な課題に取り組む、そういう中で一人一人が活躍できるそうした社会、女性の方も男性の方も、高齢者も若い方も、また障害者や難病を抱える方々も、一度失敗した方も含めて、それぞれのフィールドの中で活躍できる一億総活躍社会の実現を図っていきたいということで、これまでの三本の矢に加えて、改めて新三本の矢ということで、経済、子育て支援、そして社会保障という3つの矢に対して、それぞれ戦後最大のGDP600兆円、希望出生率1.8、介護離職ゼロという具体的な目標に向けて、今、取り組んでいるということで、国民会議を中心に議論していただいているわけでありましてけれども、そうした中で、またそれぞれの分野分野で実際に様々な取り組みをされている方、また大変深い見識、知見を持っている方々にもこうしておいでを頂きまして、意見を交換していただいて、またそれを今月末に予定しております緊急に取り組むべき施策、あるいは来年の春に向けての一億総活躍プラン、これからのロードマップということでありますけれども、そうした作成につなげていきたいということで、今日はこうしておいでいただいたところでございますので、どうかそうした趣旨を踏まえていただきながら、また御協力をいただけたら大変有り難いと思っておりますので、ひとつよろしくどうぞお願いいたします。ありがとうございます

○田中次長 ありがとうございます。

それでは、プレスの方は御退室をお願いいたします。

議事要旨

資料1:[副島三記子 株式会社資生堂執行役員、本多由紀 株式会社資生堂人事部ビジネスパートナー室長 配付資料\(PDF\)](#)

資料2:[西村幸 リバー・ゼメックス株式会社社長 配付資料\(PDF\)](#)

資料3:[山屋理恵 特定非営利活動法人インクルいわて理事長 配付資料\(PDF\)](#)

資料4:[中橋恵美子 NPO 法人わははネット理事長 配付資料\(PDF\)](#)

資料5:[加藤彰彦 明治大学政治経済学部教授 配付資料\(PDF\)](#)

資料6:[佐藤博樹 中央大学大学院戦略経営研究科教授 配付資料\(PDF\)](#)

資料7:[島原由里子 オタフクホールディングス株式会社人事部部長 配付資料\(PDF\)](#)

資料8:[中畑英信 株式会社日立製作所執行役常務・CHRO兼人財統括本部長、武内和子 株式会社日立製作所人財統括本部ダイバーシティ推進センタ部長代理 配付資料\(PDF\)](#)

○田中次長 ほかにございますでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

そろそろ意見交換を終了したいと思います。

最後に大臣からお願いいたします。

○加藤大臣 今日は本当にお忙しいところありがとうございました。

最後は働き方ということで、これまで子育てとかまた違う分野で御議論させていただきました。今日の議論を通じて特に働き方の中で、前の方のセッションのときにもあったのですが、単に両立するだけではなくて、もう一つキャリアアップをしながら、どこかで子育ては終わるわけですから、その後の自分自身の人生をどうつくっていくのかということも、非常に大きなポイントになっているなということを1つ感じさせていただきましたし、今日はそれぞれ2つの企業は非常に先駆的に取り組んでいただいているので、我々としては佐藤先生の知恵を頂きながら、どうそれを横展開していくかということこれから考えていきたいと思っております。そういう意味でも先駆的な方々ももっと前へ前へ行っていただければ、全体が更に進む部分もあるのだろうなと思いました。

今日頂きましたお話あるいはそれぞれの御経験、これから今日国民会議のメンバーの先生方もいらっしゃいますけれども、これから月末に向けての緊急対策、また、来年に向けての一億総活躍プランといった中にもしっかりと取り組ませていただきたいと思っておりますので、引き続き御協力よろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

○田中次長 どうもありがとうございました。これをもって終了させていただきます。

一億総活躍社会に関する総理と20代若者との懇談会

平成27年11月6日（金）15:00～16:00

官邸4階大会議室

1. 開会
2. 内閣総理大臣挨拶

3. 若者からの発言
4. 意見交換
5. 内閣総理大臣まとめ
6. 閉会

出席者

安倍晋三 内閣総理大臣
加藤勝信 一億総活躍担当大臣
塩崎恭久 厚生労働大臣
須藤聡美 埼玉大学経済学部経済学科 4年
水口麻那 上智大学外国語学部イスパニア語学科 4年
田中 啓 日本工学院専門学校 4年
青木光信 認定NPO法人 育て上げネット若年支援事業部
ユースコーディネーター(臨床心理士)
川崎由季子 内閣府子ども・子育て本部
小林陽菜 私立高等学校教員
清水拓摩 トヨタ自動車(株)
伊藤美緒 (学)中西学園名古屋製菓専門学校
加藤雄大 大手商社勤務
小林佐知 地域おこし協力隊(長野県長野市)
村上太一 株式会社リブセンス代表取締役社長
坪内知佳 株式会社GHIBLI(ギブリ)代表取締役

(概要)

○加藤一億総活躍担当大臣 ただいまから一億総活躍社会に関する総理と20代の若者の皆さん方との懇談会を開催させていただきたいと思います。

今日の懇談会では、一億総活躍社会について20代の皆さん方から色々と御意見を伺い、これから作成いたします「ニッポン一億総活躍プラン」の中に反映していきたいと思っております。

私は、一億総活躍担当大臣の加藤でございます。よろしくお願い申し上げます。

それでは、最初に安倍総理から御挨拶させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○安倍内閣総理大臣 皆さん、こんにちは。

安倍政権にとって大きな課題とする一億総活躍社会をつくっていくということを宣言したわけではありますが、先般、そのために国民会議をつくりました。我々は活力ある社会を次世代に引き渡していきたい。そういうことを申し上げているのですが、そういう

会議等に次世代が入っていないではないかという批判がございまして、今日はまさに次の世代の皆さんにこうして参加していただきました。

ちょうど私が皆さんと同じぐらいのとき、日本の人口は1億1,000万人から2,000万人になっていったころでありました。高度成長ではないですけれども、まだ活力を相当持っておりまして。この一億総活躍は絶対に頑張らなくてはいけないということではなくて、色々な立場の人たちがそれぞれの能力を活かすことができる、あるいは自分のやりたいことができる社会をつくっていくことなのです。若い皆さんもお年寄りも男性・女性はもちろんですが、障害がある人や難病がある人も、あるいは何回か失敗を重ねてきた人、そういった皆さんにもチャンスがあって、一歩前に出ることができる。それぞれのよさを発揮できる社会をつくっていく。そのためには、色々な障害がありますが、こういう障害を我々は取り除いていこうということになります。

今日は、皆さんに色々な立場で色々な経験をしてきていると思います。そういう皆さんから忌憚のない意見を、こういう雰囲気ではなかなか忌憚のない意見は言いにくいのですが、それを乗り越えて、忌憚のない意見を言っていて、実りある場にしていきたいと思います。

皆さんの意見を吸収しながら、政策の立案に活かしていきたいと思っております。よろしくをお願いします。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

また、今日は塩崎厚生労働大臣にも出席をいただいております。そして、12名の20代の皆さんに御参加いただいております。ありがとうございます。

では、時間の制約もありますから紹介も省かせていただいて、順次それぞれ御意見をいただきたいと思っております。

議事要旨

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

それでは、そろそろ時間ですが、よろしいでしょうか。

では、総理から皆さんにエールを含めて。

○安倍内閣総理大臣 今日は1時間という短い時間ではありましたが、皆さんから色々なお話をいただいて、大変新鮮に感じました。私たちが今、進めようしている政策なのですが、失われた20年という話がありましたが、この失われた20年というのはほぼ日本がデフレ期にあった時代で、デフレというのは、給料も下がっていくし、だんだん経済が縮んでいくわけでありまして、特にリーマンショック後にぎゅっと縮んだのです。日本の名目GDP、一時は520兆円を超えたのですが、リーマンショック後470兆円までぎゅっと縮んだのです。それを今、我々が政権を取り返してから3年間で500兆円まで戻しました。

デフレの一番の問題は、何となく無理だねという諦めの気持ちが出てきて、それを前提に考えてしまうということだろうと思います。そこで私たちは、やっとう果実がでましたから、この果実を活かしていこうということで、先ほど申し上げましたように、みんなが活躍できる社会の実現の支援として投入していく。そういうことにしようと思っています。

そこで、今までの三本の矢をより強力にしていくということで、日本一大きな経済にしていきたいと思います。人口自体は減っていきますから、みんながもっともっと活躍しないとそれはできないということですから、そういう意味において色々な障害は取り除いていきたいと思います。

同時に、希望出生率は1.8あるのです。希望出生率というのは、みんながきちんと経済的な条件も含めてそろえば子供を産みたいなという人を入れていくと、子供を産みたいと思っている人たちの平均を入れていくと出生率は1.8になっていくのだけれども、現実には1.4。この差を埋めていけば、50年後にも1億人は維持できることとなります。

ですから、それを達成するためにも子育ての支援を様々な面から、総合職で働く女性が結婚と出産、子育てと同時にキャリアを諦めない。そういう社会をつくっていくために、待機児童が増えているということで、20万人、40万人を2年、4年で達成していくという話をしまして、これをさらに10万人乗せて、40万人を達成すると待機児童はゼロになる予定だったのですが、働く女性がこの3年間で90万人ふえたものですから、そうすると、さらに需要がふえてしまって、待機児童がふえたという状況になってしまいましたが、これは思い切ってふやしていこう。実際に待機児童ゼロの目標を変えずにやっていきたいと思ったり、中小企業も含めて女性がキャリアも家庭もという希望のある女性はそれが達成できるようにしていきたい。あるいはしばらくお休みして、数年経ってまた帰ってきて頑張りたいという人たちにも色々な研修を受けたりして復帰できるような仕組みもつくっていききたいと思います。

また、田中さんは職人になりたいと、清水さんからは技能、ものづくり。日本はもともとのものづくりが得意な国でありますから、そういう価値をしっかりと活かして、ものづくりだけではなくて、色々な価値が評価される。多様性、複線化した社会をつくっていききたい。

色々なところに人生の豊かさと喜びがあるわけでありまして、萩の大島というのは私も前に選挙区だったから、今はちょっと選挙区ではなくなってしまったのだけれども、かつて行ったときは、みんなお互いに知り合いで、一番大きな車は軽トラぐらいな感じなのです。でも、みんなお互いに名前呼び合っているという社会であって、そういう社会に住んだことがない人にとっては非常に新鮮だし、そういう生活は新鮮だと思います。そうやって漁師の方あるいは農家の人たちとつき合っていくのは大変だと思いますか、そこから色々な成果を上げていくということは、それぞれの喜びだと思います。

そして、青木さんみたいに何らかの困難を抱えている若い人たちと向き合っている。加え

て、日本は何とかやっていくことができるのだらうと思いますが、そういう困難を抱えている人たちのその困難を克服していくということも含めて、一億が活躍できるというようになっていくのだらう。

国家は、皆さんの道を平坦にならすことはできませんけれども、皆さんがチャレンジできる社会をつくることはできるのだらうと思いますので、しっかりと頑張っって実行に移す。今日、皆さんから色々なお話を伺って、今後の参考にさせていただきたいと思ひます。

どうもありがとうございました。

○加藤一億総活躍担当大臣 どうもありがとうございました。

以上で終了したいと思います。ありがとうございました。

一億総活躍社会に関する総理と介護を行っている方との懇談会

平成27年11月25日(水) 15:20~16:30

官邸4階大会議室

(議事次第)

1. 開会
2. 内閣総理大臣挨拶
3. 介護を行っている方々からの発言
4. 意見交換
5. 内閣総理大臣まとめ
6. 閉会

出席者

安倍晋三 内閣総理大臣

加藤勝信 一億総活躍担当大臣

塩崎恭久 厚生労働大臣

石田芳子 専業主婦

金井龍太郎 (株)華輪(かりん)取締役

常盤文子 求職活動中

佐藤優子 保育士

須藤 拓 大成建設株式会社

師岡秀夫 「はなまる認知症家族介護者の会」代表

古川史美 専業主婦

岸 正晴「よこすか若年認知症タンポポ」代表

(概要)

○加藤一億総活躍担当大臣 それでは、ただいまから「一億総活躍社会に関する総理と介護を行っている方との懇談会」を開催したいと思います。

本日は、皆さん、大変御多用の中、こうして御出席をいただきまして、ありがとうございます。

司会を務めさせていただきます一億総活躍担当の大臣をしております加藤勝信です。よろしくお願いたします。

本日の懇談会は、一億総活躍について、御両親や配偶者の介護を行っている方々、またその支援を行っている方々から御意見を伺いまして「ニッポン一億

総活躍プラン」の作成に反映したいということで開催させていただきました。

まず最初に、安倍内閣総理大臣から一言御挨拶をいただきたいと思います。

○安倍内閣総理大臣 皆さん、こんにちは。

今日はそれぞれいろいろと御多用の中、官邸までお越しいただきまして、ありがとうございました。

御承知のように、私たちは一億総活躍社会を目指すという大きな目標を掲げたわけですが、この中で一億総活躍のためには、介護離職ゼロを目指さなければならないという新たな的を設定したわけであります。なぜそういう的を設定したかといえば、今でも多くの方々が介護のために仕事を辞めざるを得ないという状況の中において、時には共倒れの状況にもなっていく。これはやはりそれぞれが自分の人生を構築していく上において大変大きなマイナスになるわけでありまして、日本全体にとっても、日本経済にとってもこれは大きなマイナスになるわけでありまして、将来、団塊の世代の皆さんが75歳を迎える中において、こういうケースがたくさん続出してくれば、日本の経済自体が大変な打撃を受けることにもなるわけでございます。こうした現状をしっかりと直視をしながら、今から介護離職ゼロに向けていこうということでございまして、もちろんこれは施設もしっかりと充実していく必要があるわけでありまして、施設だけではなくて、予防をしっかりとしていくことも含めて、あらゆる面からこの介護離職ゼロを目指していきたいと思います。それによって日本人の人生はより豊かになっていくのではないかと、このように思います。

今日は、こうした目標に向かっていく上において、まさに地に足の着いた政策を推進していくという観点から、実際にそうした介護に当たっておられる皆様、かかわっておられる皆様に率直なお話をいただきまして、政策に反映させていきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

○加藤一億総活躍担当大臣 ありがとうございます。

今日は10名の方に参加をさせていただいております。また塩崎厚生労働大臣にも御出席を

いただいておりますので、よろしくお願いいたしたいと思います。

それでは、それぞれの方の御紹介を省略して、まず論議に入らせていただきたいと思います。

安倍総理の右側、石田さんから順番にお話をしていただきたいと思います。それぞれの介護の御体験を中心にお話をいただきたいと思います。

議事要旨

○加藤一億総活躍担当大臣 どうもありがとうございました。

まだまたお話になりたいことはあろうかと思えますけれども、ちょっと総理の時間も参りましたので、今日はここで一度締めさせてさせていただきたいと思います。また何かありましたら、私どものほうに言っていただければと思います。

今日いただきました御意見も先ほど申し上げました「ニッポン一億総活躍プラン」、この議論にしっかりと反映していきたいと思えます。今、総理から取りまとめという形でもお話がありました。その指示も厚労大臣と御相談しながら対応させていただきたいと思えます。

それでは、以上をもちまして「一億総活躍社会に関する総理と介護を行っている方との懇談会」を終わらせていただきたいと思います。

今日はどうもありがとうございました。